

令和5年度 5歳児 「野菜の栽培」

(令和5年度実践前修正箇所を斜体、実践後修正箇所を囲み文字にて示す。)

1. 期間 4月～9月及び9月～3月

2. 設定の理由

3歳児の時には、担任が育てている野菜を子どもたちは折に触れて見ている。そして、野菜が育っていく様子を見て驚いたり喜んだりしてきている。なかには担任が野菜の世話をしている様子を見たり、一緒に水やりをしたりした子どももいる。そして、収穫ができる時期になると、収穫した野菜をもらって帰り、身近な場所で育った野菜を食べることを楽しむ経験をしてきている。4歳児の時には、3歳児の時に育つ様子を見て収穫した野菜の教師が提示した中から育てたい野菜を選び、グループで栽培活動に取り組み、仲間意識を感じたり、教師や保護者に世話について教えてもらってやってみようとしたりしてきている。クラスや学年で、生長への気付きを共有したり、友達と一緒に力を合わせたりする経験も大切にしている。また、年間を通して色々な野菜を5歳児が自分たちで育てている姿を目にしてきている。

このような経験をしてきているため、5歳になると、野菜を栽培し収穫するという大きな見通しがもてるようになってきている。野菜の栽培の話題になると、自分の育てたい野菜を発言する子どもが多い。野菜によってはいつの時期にできる野菜かが分かっている子どももいるが、いつの時期に植えるのか、収穫がいつ頃できるのかについてはまだまだ知らない子どもも多い。しかし、季節によって育てられる野菜と育てられない野菜があることや、自分たちが4月から小学校に行く見通しをもって、幼稚園修了までに収穫できる野菜を選ばなければならないことなどは、5歳児であれば話を聞いたり、本やインターネットを使って調べて見せたりすると分かるようになってきている。

また、これまでの経験と年長としての自覚や誇りから、自分達自身で世話をすることへの期待をもっている。加えて、責任をもって自分の役割を果たそうとする気持ちも育ってきており、自分が育てている野菜に必要な世話は責任をもって取り組むようになる。そして、野菜を栽培する過程で、困った時には、知っている人に聞いたり本を見たりし、必要な情報を得て、自分達の野菜の世話に必要なだと考えてしてみようとする姿を見せる子どももいる。

野菜の栽培は、子どもにとっては「好きな野菜、知っている野菜を育ててみたい」「おいしい野菜を育てたい」等の明確な目的がある。そして、そのためにしなければならぬ世話も分かりやすい。しかし、自然が相手であるため、必ずしもうまくいくとは限らず、強い風やボールが当たって苗が折れたり、病害虫に悩まされたり、鳥に実を食べられたりすることもある。そして、その解決に向かって聞いたり調べたり考えたりしなければならぬことも起こってくる。そのようなことがあってもそれを解決するために、仲間と一緒に試行錯誤するところに意味があり、解決できて野菜の収穫に結びついた時には、大きな満足感も得られると考える。このように、野菜の栽培を通して、5歳児の前半においては具体的な目標に向かって、友達と一緒に困ったことを乗り越えたり共に喜びを味わったりすることを経験してほしいと考える。

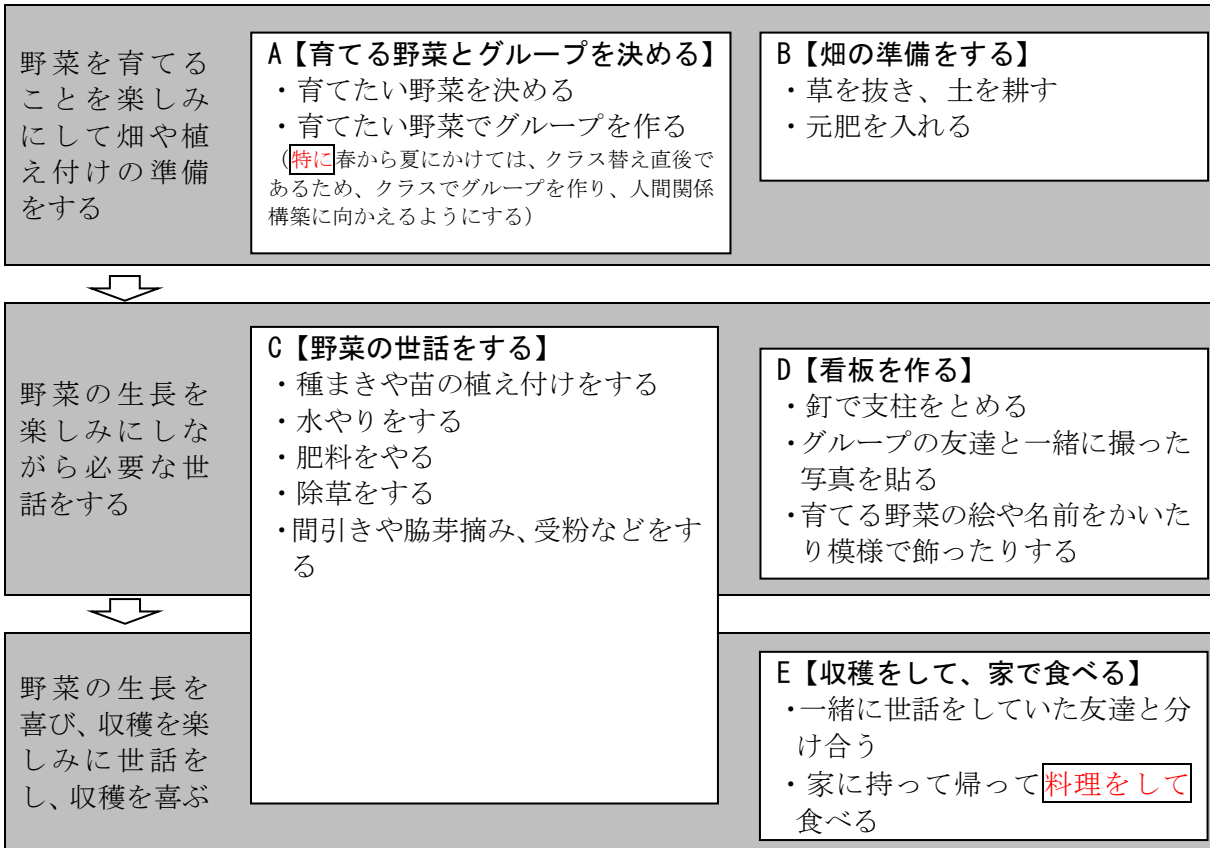
そこで、具体的な目標をもって主体的に取り組めるように、育てる野菜を自分で決めさせたい。そして、友達と一緒に困ったことを乗り越えたり共に喜びを味わったりできるように、育てたい野菜が同じ子どもと一緒に世話をしたり収穫をしたりする必然性が生まれる状況を作っていきたい。

5歳児後半の冬野菜においては、これまでの経験を生かし、友達と力を合わせたり相談したりして世話をしながらも、友達に頼りきることなく、自分で責任をもって自分の野菜を育てる経験をさせたい。冬野菜は根菜や葉野菜が多く、一人一株育てやすいと考える。

3. ねらい

- ① 自分の育てたい野菜を自分で決め、期待と責任をもって毎日世話をしようとする。
自ら決める・選ぶ
- ② 毎日世話を続けることで野菜が生長していくことや収穫できたことを喜んだり、大変だったことや毎日世話を続けてきた自分を振り返り、世話を続けてよかったと思ったりする。
自分に満足する
自分を客観的に把握する
- ~~③ 同じ野菜を育てている友達の気持ちを聞いたり、自分のしたことを振り返ったりして、そのよしあしを考え、よいと思うことをしようとしたり、自分の役割や責任を果たそうとしたりする。~~
よりよい自分に向かう
- ③ 同じ野菜を育てる仲間がいることを喜び、一緒に世話をしたり野菜の変化を伝え合ったり収穫したりすることを楽しむ。
他者という喜びを感じる
- ④ 育てたい野菜が同じことから一緒にグループになった友達の個性や頑張り気付いたり、認めたりする。
他者のことを知る
- ⑤ 一緒に世話をする中で、友達にしてほしいことや自分がしたいこと、自分の考えなどを分かるように伝えようとしたり、分かってもらえるまで伝えようとしたりし、伝えることのよさを感じる。
自分のことを伝える
- ⑥ おいしい野菜を作るため、病害虫や鳥などの自然の脅威から野菜を守るために、一緒に考えたり声を掛け合ったりして野菜に必要な世話や土づくり、看板づくりを一緒にしようとする。
人と物事を進める
問題を認識する
- ⑦ ノコギリや金槌を使う時に、どうすると危ないか考えたり、周りの友達や物に注意を向けて確かめ、危なくないようにしようとしたりする。
身を守る
問題を認識する
- ⑧ 看板作りで、ノコギリをひく力加減を調整したり、やりやすい姿勢や板を力を入れて押さえやすい箇所ノコギリの角度などのコツを感じたりする。また、金槌で釘を狙って打ったり、打ち込むコツや打つ時に身体に響く感覚などの感覚を感じたりする。
身体を操作する
- ⑨ ~~野菜に適した季節や収穫の時期があることや、間引きや脇芽摘、受粉など様々な世話の仕方を知ったり、~~野菜の生長を楽しみにし、関心をもって見ることで、その変化や野菜の特徴に気付いたりしながら、大切に世話を続けようとする。
生き物・いのちを見つめる
- ⑩ 野菜に適した季節や環境、収穫の時期があることや、間引きや脇芽摘、受粉など様々な世話の仕方を知って世話をしようとする。
事物・現象を捉える
- ⑪ 集めて置いておいた落ち葉が、水をかけたり踏んだりすることで時間をかけて腐葉土になっていくことを知り、驚く。
事物・現象を捉える
- ⑫ 金槌を使うと釘を木に打てることや釘を打つと木がくっつくこと、木槌を使うと看板を土に打ち込めることを感じる。
事物・現象を捉える
- ⑬ 自分たちの作った看板が素敵に楽しくなるように絵や模様で飾ることを楽しむ。
造形に表す
- ⑭ 自分たちの知らせたいことが伝わるように文字や絵でかいて知らせようとしたり、かき残しておくよさを感じたりする。
語彙・語句を活用する
- ⑮ 収穫した野菜の数や大きさ、重さを数えたり測ったりして多少を感じたり、グループの人数と収穫した野菜の数を比べたり、どうすれば分けられるか考えようとしたりする。
数・量をと捉える
比較する
- ⑯ 使った釘の数と残った釘の数を数えて確かめたり、角材の必要な長さを測ったりする。
数・量を捉える
- ⑰ 板と角材を重ね、どこを釘で打つと付くか考えたり確かめたり、板に対して釘が真っ直ぐ入っているか確かめたりする。
空間を捉える
- ⑱ 食べることを楽しみにして野菜を育て、自分で手を加えて食べられるようにしたり、それを食べたりする喜びを感じたりする。
食を見つめる

4. 展開（以下を春から夏にかけてと秋から冬にかけて2回取り組む）



A【育てる野菜とグループを決める】		
予想される子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
・育てたい野菜を決める	○自分の育てたい野菜を自分で決め、頑張っている世話をしようと思う①	◎栽培する野菜を自分で決められるように、決まるまで時間を充分に取り、一人一人の子どもに自分で言わせたり、理由を尋ねたり、友達を見て決めていないか確かめたりする。 ◎自分達で頑張っている育てていこうと思えるように、収穫を楽しみにする気持ちを盛り上げたり、去年の年長が苦労していた話や美味しく食べていた話をしたりする。
・育てたい野菜でグループを作る	○野菜に適した季節や環境、収穫の時期があることを知る⑩ ○同じ野菜を育てる仲間がいることを喜ぶ③	*育てたいと考えた野菜を植え付ける時期や収穫の時期、育つのに適した環境を調べて確かめられるように、野菜の栽培に関する本やインターネットで調べるためのパソコンを用意しておく。 ◎子どもが育てたいと思った野菜をそれぞれの季節や園での環境で育てられるかどうか分かるように、その場で調べ、植え付けに適した時期や育つ環境、収穫できる時期を知らせて育てられるかどうか一緒に判断する。 ◎同じ野菜を育てる仲間がいることを喜び、その友達と一緒に野菜に必要な世話をしようと思えるように、誰がどの野菜を育てたいと思っているかを知らせる。そして、同じ野菜を育てる友達とグループを作って一緒に世話をすることを提案する。

B【畑の準備をする】		
予想される 子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
<ul style="list-style-type: none"> ・草を抜き、土を耕す ・元肥を入れる 	<ul style="list-style-type: none"> ○野菜の植え付けや生長に期待をもって準備をしようとする① ○集めて置いておいた落ち葉が、水をかけたり踏んだりすることで時間をかけて腐葉土になっていくことを知り、驚く① 	<ul style="list-style-type: none"> ◎野菜を植えることに期待をもって準備ができるように、自分が育てたい野菜やグループを決めることと平行して、野菜を植えるためには、準備が必要であることを伝え、一緒にするよう呼びかける。そして、教師も一緒に畑の草を抜いたり土を耕したりしながら自分たちのしていることが野菜の生長にとってどのようによいかを伝える。(可能な保護者に保育参加を呼びかけ、関わり方を伝え、一緒にやってもらう) *葉っぱが腐葉土になっていくことを身近に見て感じられるように、腐葉土を作る場所を年中児や年長児が目にするところに確保しておく。 ◎葉っぱが腐葉土になっていくことを感じられるように、落ち葉を集めたり、集めた落ち葉に水をかけたり踏んだり混ぜたりする姿を見せたり、一緒にしたり、葉の様子の変化に気付かせたり知らせたりする。

C【野菜の世話をする】		
予想される 子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
<ul style="list-style-type: none"> ・種まきや苗の植え付けをする ・水やりをする ・肥料をやる ・除草をする ・間引きや脇芽摘み、受粉などをする 	<ul style="list-style-type: none"> ○期待と責任をもって毎日世話をしようとする① ○同じ野菜を育てている友達の気持ちを聞いていたり、自分のしたことを振り返ったりして、そのよしあしを考え、よいと思うことをしようとしたり、自分の役割や責任を果たそうとしたりする③ ○同じ野菜を育てる仲間がいることを喜び、一緒に世話をしたり野菜の変化を伝え合ったりすることを楽しむ③ ○育てたい野菜が同じことから一緒にグル 	<ul style="list-style-type: none"> *野菜を育てることに期待がもてるように、自分の育てたい野菜を育てられるように種や苗をそろえる。 ◎責任をもって毎日世話を続けようと思えるられるように、自分から水やりや草抜きをしている姿をほめたり認めたり、野菜の様子を尋ねたりする。 ◎自分の野菜の世話を責任をもってするために、また、友達と一緒に育てていくために、どうすべきか考え、よいと思うことをできるように、野菜の様子や友達の気持ちに気付かせたり、どうしようと思っているのか尋ねたりする。 ◎同じ野菜を育てる仲間がいることよさを感じられるように、一人では難しい世話を教師も手伝いながら仲間と一緒にするように誘う。 ◎野菜の変化を友達と一緒に喜んでみられるように、野菜の変化を見つけた子どもが仲間の友達に知らせる様子を見守ったり、まだ知らない友達に教えてあげるように促したりする。 ◎同じグループの友達の個性や頑張りに気付いたり、認めたりするように、同じ野菜を育てるようになった友達の気付いたことや考えたことをグル

ープになった友達の個性や頑張りに気付いたり、認めたりする④

○一緒に世話をする中で、友達にしてほしいことや自分がしたいこと、自分の考えなどが分かるように伝えようとしたり、分かってもらえるまで伝えようとしたりし、伝えることのよさを感じる⑤

○おいしい野菜を作るため、病害虫などの自然の脅威から野菜を守るために一緒に考えたり声を掛け合ったりして野菜に必要な世話をする⑥

○間引きや脇芽摘、受粉など様々な世話の仕方を知ったり、野菜の生長を楽しみにし、関心をもって見ることで、その変化や野菜の特徴に気付きながら、大切に世話を続けようとしたりする⑨

○間引きや脇芽摘、受粉など様々な世話の仕方を覚えて世話をしようとする⑩

○自分たちの知らせたいことが伝わるように文字や絵でかいて知らせようとしたり、かき残しておくよさを感じたりする⑭

○毎日世話を続けるこ

ープの仲間で話をしている機会を捉えて、友達の気付きや考えを一緒に受け止めて話を聞いたり、世話を頑張っている友達の姿を知らせたり頑張りを教師が認める姿を見せたりする。

◎自分の思いや考えを友達に伝わるまで伝え、伝えることのよさを感じられるように、伝えようとする姿を見守ったり励ましたり、相手がどう返事をしたのか尋ねて伝わっているか確かめたり、どんな伝え方をしたらいいか一緒に考えたり、伝わった嬉しさを言葉にしたりする。

◎毎日の世話以外の特別に必要な世話をする必要がある時には、グループの友達と一緒に解決しようできるように、グループの中で世話が必要なことに気付いていない友達を誘って一緒に世話をす時間をとるように誘う。

◎グループの友達と一緒に、野菜に必要な世話ができるように、本で調べたり、家庭や知人から聞いてきたりしたことを伝え合うことを提案する時間をとる。

◎野菜の生長による変化に関心をもって見られるように、野菜の変化に気付いた子どもに付き合っ一緒に見たり驚いたりする。そして、そのことを他の友達に知らせるように促し、子どもの気付きを他の子どもに広げ、自分の育てている野菜の変化にも注目させる。

◎毎日楽しみながら世話をするように、野菜の変化を一緒に見たり、昨日と違う様子を見つけて話をしたりする。

*いろいろな野菜の成長や世話について、クラスや学年で共有できるように、子どもの気付いたことや変化をその都度写真に撮り、掲示することを継続して行う。

◎野菜の様子に合わせて必要な世話があることを知ったりしたりしようと思えるできるように、野菜や畑の変化に気付かせたり、本と一緒に調べたり、見通しをもたせたりする。

◎自分たちが育てている野菜のことを知ってもらえるように文字や絵をかいたりかき残したりしようと思いたいと思えるように、自由にかき残せるものや場所を用意したり、知らせたい様子を写真に自分で撮る iPad を用意したり、残しておいたことのよさを言葉にしたりする。

◎毎日世話を続けてよかったと思えるように、毎日世話を続けていることと野菜の生長を結びつけて

	<p>とで野菜が成長していくことや収穫できたことを喜んだり、大変だったことや毎日世話を続けてきた自分を振り返り、世話を続けてよかったと思ったりする。②</p> <p>○食べることを楽しみにして野菜を育てることを楽しむ⑱</p>	<p>ほめたり、これまで大変だったことや工夫したことを思い出させ、野菜の生長を一緒に喜んだりする。</p> <p>◎実が大きくなってくりにしたがって食べることを楽しみにして育てられるように、どんな料理をして食べたいか話を聞いたり教師の食べたい料理の話をしたりする。</p>
--	---	--

※野菜の変化とは、芽が出る、莖が伸びる、葉が増える、莖が伸びる、花が咲く、実がなる、実が大きくなる、実が色付くなど
 ※野菜に必要な世話とは、支柱立て、ネット張り、わき芽摘み、間引き、追肥、摘心、受粉など

D【看板を作る】(※R4、5は夏野菜のみグループの看板を作った。)		
予想される子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
<ul style="list-style-type: none"> ・釘で支柱をとめる ・グループの友達と一緒に撮った写真を貼る ・育てる野菜の絵や名前を書いたり模様で飾ったりする 	<ul style="list-style-type: none"> ○同じ野菜を育てる仲間と一緒に考えたり、手伝ったりして看板を作ろうとする⑥ ○ノコギリや金槌を使う時に、どうすると危ないか考えたり、周りの友達や物に注意を向けて確かめ、危なくないようにしようとしたりする⑦ ○看板作りで、ノコギリをひく力加減を調整したり、やりやすい姿勢や板を力を入れて押さえやすい箇所ノコギリの角度などのコツを感じたりする。また、金槌で釘を狙って打ったり、打ち込むコツや打つ時に身体に響く感覚を感じたりする。⑧ ○金槌を使うと釘を木に打てることや釘を打つと木がくっつくこと、木槌を使うと看板を土に打ち込めることを感じる⑫ ○使った釘の数と残った釘の数を数えて確かめたり、角材の必 	<ul style="list-style-type: none"> ◎友達と看板の飾り方や作り方を一緒に考えたり、手伝ったりしながら作ろうと思えぬるように、グループの友達と一つ(人数によっては二つ)の看板を作る機会をつくる。 ◎どうすると危ないか、危なくないようにどうしたらいいか考えて、気をつけてノコギリや金槌を使おうとするように、どんな道具か知らせたり、どうすると怪我をしやすいか具体的に知らせたり意識して気をつけていることを言葉にしたりする。 ◎ノコギリを引いたり金槌を打ったりするコツを感じられるように、やりやすいかどうか尋ねたり、コツを得てしている友達の姿を見せたり、どうするとやりやすいか尋ねて感じていることを言葉にさせたりする。 ◎木と木を釘でとめるコツをつかめるように、釘を打つ箇所をバランスよく配置するよう考えさせ、金槌と釘の扱いが難しい子どもには手を添える。 ◎打つ時に身体に響く感覚を味わえるように、どんな感覚か尋ねたり、子どもが感じていると教師が見取った感覚を言葉にしたりする。 ◎金槌や木槌、釘の特性やしたことによる違いや変化を感じられるように、扱い方を見せたり十分試す時間や機会を保障したり、様子の変化を言葉にしたり不思議がったりする。 ◎釘の数を数えて確かめたり、必要な角材の長さを測って切ろうとしたりするように、グループに1

	<p>要な長さを測ったりする¹⁵</p> <p>○板と角材を重ね、どこを釘で打つと付くか考えたり確かめたり、板に対して釘が真っ直ぐ入っているか確かめたりする¹⁷</p> <p>○自分たちの知らせたいことが伝わるように文字や絵でかいて知らせようとする¹⁴</p> <p>○自分たちの作った看板が素敵に楽しくなるように絵や模様で飾ることを楽しむ¹³</p>	<p>0本ずつタッパに入れて釘を渡し、使った数と曲がった数、残った数を確かめるよう促したり、適切な長さを知らせたり定規で測って見せたりする。</p> <p>◎板と角材の位置、釘の刺さり方を感じたり確かめたりしながら作れるように、どこを釘で打つとくつつくか、安定しそうか尋ねたり、釘の角度を一緒に見て確かめたりする。</p> <p>◎自分たちの知らせたいことを伝えるために文字や絵などを使おうが育てていることを楽しんで知らせたいと思えるように、グループの友達と撮った写真を渡し、知らせたいことを友達と相談する時間もったりどんなことをかいたら伝わるか尋ねたりする。</p> <p>*知らせたいことをグループの友達と一緒に表現できるように、グループの友達と撮った写真や油性ペン、板をグループに一つずつ用意しておく。人数の多いグループには、一人ずつが表現できるように、複数の材料を用意する。</p> <p>◎看板を絵や模様で飾って素敵にしようと思えるように、こだわっているところを具体的に言葉にしたり、絵を描くことで素敵になってきたことを知らせたりする。</p>
--	---	---

E【収穫をして、家で食べる】		
予想される子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
<p>・一緒に世話をしていた友達と分け合う</p> <p>・家に持って帰って食べる</p>	<p>○一緒に野菜を収穫することを楽しむ³</p> <p>○収穫した野菜の数や大きさ、重さを数えたり測ったりして多少を感じたり、グループの人数と収穫した野菜の数を比べたり、どうすれば分けられるか考えようとしたりする¹⁵</p> <p>○自分で手を加えて食べられるようにしたり、それを食べたりする喜びを感じたりする¹⁸</p>	<p>◎野菜を一緒に育てた仲間と楽しんで収穫できるように、同じ野菜を育てている仲間が集まって収穫するよう呼びかけ、野菜の収穫の時期を育てている子どもと一緒に判断する。</p> <p>*生長を喜んで比べたり分けたりする必要に応じて、大きさや重さ、数を測れるように、定規や秤を用意しておく。</p> <p>◎野菜の大きさ、高さ、重さ、数に関心をもったり、グループの人数でどう分けるか考えたりするように、量の多少を一緒に感じたり、大きさや高さ、重さや数の違いを尋ねたり、何人で分けるのか尋ねたりする。</p> <p>◎収穫した野菜を自分で手を加えて食べられるようにしたり、それを食べたりする喜びを感じたりするように、家庭に協力を求めて子どもと一緒に調理してもらったり、調理したり食べたりする中で気付いたり感じたりしていたことをレポートで紹介してもらったりする。</p>